



3人の生徒が、第18回日本地学オリンピックに挑戦しました。

普通科
探究科

第18回日本地学オリンピックの一次予選が1月21日(日)に開催され、3人の生徒が参加しました。日本地学オリンピックは、小・中・高校生のみなさんが地学に関わる知識や思考力を競い合い、日本全国、さらには世界各国の人々と仲間をつくり、地球を楽しむことを目的としています。そして、試験に向けた学びをSDGsの達成と自然災害や環境問題の理解に役立てることを目指しています。



第18回日本地学オリンピックに参加した生徒

オンラインで開催された一次予選には、全国から1,433人の参加があり、そのうち本校からは、探究科の2年次生が1人、文理探究科の1年次生が2人参加しました。一次予選では60問が出題され、この結果をもとにして上位およそ200人が二次予選に出場することができます。残念ながら、本校生徒は二次予選に進むことはできませんでしたが、例年、普通科文系コースや人文社会科学科の1・2年次生で、日本地学オリンピックへの参加をきっかけに地学への興味・関心を高め、引き続き自主的に学習し、3年次の大学入学共通テストの理科の科目の1つとして地学基礎を選択する生徒がいます。日本地学オリンピックに参加した生徒以外にとっては難しい選択ですが、これに向けてしっかり学習した普通科文系コースや人文社会科学科の1・2年次生は、大学入学共通テストで地学基礎を考えてみてもよいと思います。

昨年度までは、新年を迎えた1月に日本数学オリンピックが開催されていましたが、今年度から11月の実施に変更されたため、このたびの日本地学オリンピックが、今年度最後の科学オリンピックでした。生徒のみなさんの興味・関心の高まりと意欲の向上により、昨年度に続き今年度も国立研究開発法人科学技術振興機構(以下、「JST」という。)が関

JSTが主催する科学オリンピックに参加した、本校生徒ののべ人数

大会名	普通科			探究科			文理探究科	合計
	3年	2年	1年	3年	2年	1年		
第36回日本数学オリンピック		3			3	8	14	
化学グランプリ2025		2		1	1	3	7	
日本生物学オリンピック2025	3			2		9	14	
第21回全国物理コンテスト物理チャレンジ2025		1		1	4	7	13	
第25回日本情報オリンピック		6	6		7	21	40	
第18回日本地学オリンピック					1	2	3	
第20回科学地理オリンピック日本選手権		1			2	3	6	

わる7つの国際科学オリンピックの国内予選すべてに本校生徒が参加し、参加した生徒の人数はのべ97人でした。JSTが、国際科学オリンピックを紹介するために発行している国際科学技術コンテストのリーフレット (<https://www.jst.go.jp/cpse/contest/student/pdf/contest2025.pdf>) には、科学オリンピックに参加した経験を生かす方法の一つとして、「大学入試におけるメリット」がまとめて掲載されています。そして、今年度も本校の3年次生が、科学オリンピックに参加した経験を生かして、総合型選抜や学校推薦型選抜に挑戦しました。3年次になってから慌てて受験した生徒もいましたが、受験勉強との両立を考えると、2年次までに挑戦することが望ましいと思います。1年次生は、来年度が最後のチャンスと考えて、今のうちから、挑戦したいコンテストを選んでみませんか。



国際科学オリンピックを紹介するリーフレットと、そのウェブページの二次元コード

22人の生徒が、山口東京理科大学の薬学部で医薬品の合成に挑戦しました。

普通科

探究科

10月19日(日)に、本校生徒22人と宇部高等学校の生徒19人が協働して、山陽小野田市立山口東京理科大学の薬学部で実験に挑戦しました。このたび本校から参加した生徒は、普通科の3年次生が1人、2年次生が8人、1年次生が4人、探究科の2年次生が2人、文理探究科の1年次生が7人です。



参加した宇部高等学校と本校の生徒

当日は、大学に到着したのち、大学の紹介や、これから合成するエダラボン注射液について説明がありました。エダラボン注射液は、脳梗塞や筋萎縮性側索硬化症の治療薬として用いられているものです。そして、説明を担当された薬学部 教授 松永 浩文 先生は、本校の学校運営協議会委員やスーパーサイエンスハイスクール運営指導委員を務めておられます。午後からは実験室に移動して、いよいよ合成実験です。アセト酢酸エチルと有毒な物質であるフェニルヒドラジンとを混合して加熱し、140℃を保ち続けると合成することができました。そして、ジエチルエーテルを加えることにより生じたエダラボンを結晶にしました。実験では液温を140℃に保つため、シリコンオイルを入れたオイルバスで加熱したり、溶液から結晶を分離するためブッフナー漏斗で吸引ろ過をしたりしました。学校で行う普段の実験では使ったことがない機器を用いて医薬品を合成するなど貴重な経験を積むとともに、実験の合間には、山口東京理科大学の学生や宇部高等学校の生徒のみなさんと大学や高校での生活、将来の夢などについて語り合いました。

実験の後に参加した生徒が書いた学習シートには、「実際に医療現場で使用され、人の命を救っている薬を自分でつくる体験ができ、興味深かった。」や「実験は大変だったけれども、目的の物質を合成できたときの達成感やうれしさはとても大きいものだった。」「大学生に大学生活について尋ねたところ、勉強も大変だが楽しいことも多いと聞いて、大学に進学することへの興味が高まった。」などがありました。参加した生徒の多くは、将来薬剤師を目指しています。夢の実現に向け、これからも頑張ってください。



グループに分かれて実験に挑戦

「実際に医療現場で使用され、人の命を救っている薬を自分でつくる体験ができ、興味深かった。」や「実験は大変だったけれども、目的の物質を合成できたときの達成感やうれしさはとても大きいものだった。」「大学生に大学生活について尋ねたところ、勉強も大変だが楽しいことも多いと聞いて、大学に進学することへの興味が高まった。」などがありました。参加した生徒の多くは、将来薬剤師を目指しています。夢の実現に向け、これからも頑張ってください。

英会話部の生徒が、山口県高校生ディベート大会に出場しました。

普通科

探究科

11月2日(日)に英会話部の生徒6人が、オンラインで開催された令和7年度山口県高校生ディベート大会に参加しました。参加した生徒は、普通科の2年次生1人と、探究科の2年次生5人です。ディベートの論題は、「The Japanese Government should ban children under 16 years old from using social media.(日本政府は16歳未満のソーシャルメディア利用を禁止すべき。)」で、大会には、本校に加え4つの高等学校が参加していました。参加した6人は、大会に向けて論題を肯定するための意見と否定するための意見をそれぞれ考えてきました。さらに、これらの意見をわかりやすく英語で発表する準備もしてきました。残念ながら、入賞には届きませんでした。大会に向けて努力し戦い抜いたこの経験を、これからの学校生活で生かしていきましょう。



令和7年度山口県高校生ディベート大会に参加した英会話部の生徒

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科・文理探究科を対象としたプログラムです。